

Rotary Moriguchi Evening

2024-2025
Weekly Bulletin no.21 District 2660 Rotary Club



- ◆国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック
- ◆第2660地区ガバナー 大橋 秀典
- ◆クラブテーマ「言葉ではなく行動で」

創立 2000年11月2日
例会日 木曜日 18:30-19:30
例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
事務局 守口市河原町10-5
ホテル・アゴーラ大阪守口5F
TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441
会長 長野 良雄
幹事 水谷 武志
会報担当 クラブ運営委員会
E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
http://www7b.biglobe.ne.jp/~m-evening/
m-eveningre/

本日例会 2025年 2月20日(木) 第992回

クラブ親睦例会(ノーマイカー例会)

担当: クラブ運営委員会

卓話: 「輸出された和製漢字」

福田 治夫 会員

前回例会 2025年 2月 6日(木) 第991回

1. 開 会 会 長
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 四つのテスト唱和
5. 誕生日のお祝い 中道会員
6. ニコニコ箱報告(小計5,000円 累計202,000円)
中道会員 また1つ年をとりました。
7. 幹事報告
 - 定例理事会報告
 - ①大阪国際高校卒業式の件 長野会長出席
 - ②守口市教育委員会人権カレンダーの件(承認)
 - ・広告費用40000円
 - ・広告掲載内容を変更する
 - ③3月親睦例会の件(承認)
ループで開催する
 - ④連絡
地区メディア懇談会の発表について
2/21(金)開催される地区主催のメディア懇談会にて、当クラブが実施したGG事業(カンボジアシエムリアップ病院事業)の報告依頼があり、小林会員が担当会員として報告されることになりました。
 - 2月例会開催日連絡
開催日 2/6、2/20 休会日2/13、2/27
 - 事務局閉局連絡 2/10(月)有給休暇取得
 - 式典開催連絡
2/15(土)大阪平野RC創立50周年式典開催
長野会長出席
 - 大阪ユニバーサルシティRCからの連絡
IM5組エキスポフェスタの案内
開催日: 4月19日(土)

参加費: 20000円(パーティ参加費込み)

※20才以下は参加不可

参加希望の方は事務局までお知らせ下さい。

8. 出席報告(会員総数17名)

2月 6日 出席10名 欠席7名 出席率58.82%
メイクアップ報告なし

9. 会長の時間

10. 本日のプログラム

担 当: 国際奉仕委員会

卓 話: 「支援教育の現状」

卓話者: 北山 展弘 会員

11. 閉 会 会 長

会長の時間

「吹田RCでの卓話」

本日2月6日12:30から、IM2組の吹田RCで卓話をして来ました。当クラブがホストをした際のRYLAでお世話になった、吹田RC副会長の富永会員より卓話の依頼を受けました。吹田RCは会員数が50名程ですので、少し緊張しましたが、やりがいもありました。他クラブで卓話をするのが初めてでしたので福田副会長にも同行してもらい、とても心強かったです。卓話は「自衛隊のレンジャー」のタイトルで話をしました。皆さん初めて聞かれる内容だったようで真剣に聞いて下さいました。終わった後には名刺交換や写真撮影も行われ、大変活気がありました。その時に「2回目もお願いします」と再依頼を受けましたので、また余裕があれば違う話をしてみたいと思いましたが、やはり大人数の前での卓話はやる気もでますので、当クラブも会員数を増やし、大勢の前で卓話ができるようにしましょう。

例会休会連絡 2月27日(木) 細則休会

次回例会 2025年3月 6日(木) 第993回

卓話担当: 会員組織委員会 寺田会員

卓話 「支援教育の現状」

北山 展弘 会員

いま幼児教育施設では支援を必要とする子どもが年々増えています。なかでも昔の自閉症、現在では自閉スペクトラム症といいます。が、他者とのコミュニケーションの質が偏っている、著しく興味が限局するなどの特性を持っている子が急速に増えていると感じています。

自閉スペクトラム症は先天的な脳の機能異常により引き起こされていると考えられていますが、その原因は遺伝的な要素、食品添加物、環境中の化学物質などと色々と推察されていますが、どの子にもあてはまるような原因は明らかになっておらず、今なおはっきりとした原因がわからないというのが現状です。

主な特徴としては、

- ・視線が合わないか、合っても共感的でない
- ・表情が乏しい、または不自然
- ・名前を呼んでも振り向かない
- ・人見知りしない、親の後追いをしない
- ・ひとりごとが多い
- ・人の言ったことをオウム返しする
- ・抱っこや触られるのを嫌がる
- ・一人遊びが多い
- ・ごっこ遊びを好まない
- ・食べ物好き嫌いが強い

などがあり、周囲の状況を見て理解する力が弱く、相手が嫌がっていても気づかない、自分の感情のコントロールが難しい、欲しい物は欲しい、嫌なものは嫌、行動をうまく調節できず、興奮するとはしゃぎ過ぎる特徴が見られます。



このような特徴であることから、幼稚園や保育園、その他の就学前の施設で周囲の子どもたちと仲良く遊ぶ、ルールのある遊びに協調して参加するということが大変難しく、一人

でいることを好む傾向もあるため、放っておくと孤立した状態になることが多くなります。そのような子どもたちと周囲の子どもたちとの様々な溝を埋めるために、個別に加配教員が必要になります。加配教員がそれぞれの支援を必要とする子どもの特性を良く理解しながら、足りないところを支援することがとても大切です。具体的には、友だちとのコミュニケーションへの誘導や適切な助言をしながら集団に馴染めるように配慮したり、毎日の子どもの状態を把握しながらきめ細かな支援をしていくことになります。

現在、文部科学省、厚生労働省では幼児教育保育の質を上げるため配置基準という幼稚園教諭、保育士が見る子どもの数を減らしています。また、両親とも就労する家庭がどんどん増加していますので今までよりもたくさんの幼稚園教諭や保育士が必要となっています。このため世間でも知られているように幼稚園教諭や保育士の数が圧倒的に足りなくなっており、先生の採用は困難を極めます。そのような中、支援を必要とする子どもたちへの加配教員の確保も本当に難しいのが現状です。

本来なら、当該児は早期に発達検査を受け、その子の支援が必要な部分をきちんととらえ、集団での生活時間を短くすることにより本人の負担を減らしながら、保育終了後にそれぞれの子どもの苦手とする部分の発達支援のための個別のプログラムによる療育を受けることが望ましいと思われます。

しかしながら、発達検査は順番待ちで6カ月後にしか受けられないというような状態です。発達検査も受けられないし加配教員も配置できない場合は、通常のクラスの中で担任が四苦八苦しながら子どもたちのために対応しているのが現状です。担当の先生にも大きな負担になりますし、何より支援が必要な子どもたちに適切な環境が用意できていないことは今後も大きな問題となるでしょう。

小学校でももちろん同様の問題が起こっています。一刻も早く、一人一人のこどもたちがその子に合った環境で育つことができる保育環境、学習環境の整備が望まれます。